

町政を問う 一般質問

一般質問では、議員が町に対して、町政全般にわたって施策を問いただす。
 9月定例会では8人の議員が登壇し、一般質問を行った。
 議会だよりでは、質問と答弁の要旨をまとめており、全文記録（会議録）は
 町ホームページに掲載している。

一般質問 目次

質問項目	質問者	ページ
2030年までがラストチャンスだ	磯野 博	8
充実した金魚と鯉の郷広場施設づくりを	濱崎 久	9
通学路の点検と安全対策を		
答弁は虚言ではないか		
登校日には給食の実施を	田成 護	10
子育て支援は、地域全体で支える取組が必要では！	前田美和子	11
学校給食費の保護者負担の完全無償化、一部助成を求める	林 敏哉	12
ふるさと納税を活用した地域活性化を	荒木 睦子	13
通学路の安全対策を		
人口減少や少子高齢化時代の新しい地域運営組織の設立を	竹本 信次	14
第3次食育推進計画の状況は	福本みや子	15



いその ひろゆき
磯野 博
議員

2030年までがラストチャンスだ

答 喫緊の課題と認識している

若 い子育て世代がインフレで生活にダメージを受ければ、将来に不安を覚えるのも無理はない。2030年問題は目前に迫っている。タイムリミットまであと7年、本町独自の異次元の少子化対策が必要ではないか。

答

(町長)

6月に策定された国のことも未来戦略方針において、若年人口が急激に減少する2030年までに現状の人口減少を食い止めることが重要であるとされ、少子化対策は全国的な喫緊の課題の一つであると捉えている。

町においても、総合的な少子化対策に取り組んでいる。今後も国の動向を注視しつつ、乳幼児期からの健康や教育面における子育て支援をはじめ、道路整備や宅地開発等による定住の促進、福祉や産業との連携を図りながら、総合的な人口減少対策に向けた事業の展開を図っていきたい。

町政を問う



本町独自の子育て支援策を！

問 新規の取組等は特に考えていないということか。

答

(子育て支援課長)

子育て世帯のニーズを把握するために、子ども・子育て支援事業計画を5年ごとに策定している。

令和6年度に次の計画を策定するので、各年代へのニーズ調査等を行う予定である。そこで出てきた意見を集約し、子育て世帯のニーズに沿った取組を図っていきたい。

答

(住民環境課長)

6月末現在で36・6%である。

問 昨年10月の国の29%と比較して、10年以上先に進んでいるのではないかと。本町は消滅可能性自治体と言われている。

町の少子高齢化は既に進行して、実は大変なことになっているのではないかと。町民一丸となって克服すべき課題ではないか。

国は、「2030年までがラストチャンスであり、我が国の持てる力を総動員し、少子化対策と経済成長実現に不退転の決意で取組まなければならない。」と強く発信している。次年度に向けた子育て支援の考えは。

答

(町長)

国、町においても喫緊の課題であると認識している。今後、国が打ち上げている異次元の少子化対策や、具体的な財源等の案が出てくると思う。これを来年度の事業等で取組んでいく。



はまざき ひし久
濱崎 議員

充実した金魚と鯉の郷広場 施設づくりを

【答】町の魅力を発信する施設づくりに努める



皆さんをお迎える
金魚と鯉の郷

さ きの台風で、町管理道路上に数か所、樹木が倒れ込んで3日目、見かねた住民が倒れた樹木を伐採していた。植栽した藤の木は、なぜ花が咲かないのか。鯉の池の排水は、設計に配慮不足があると答弁があった。心底から努力して、再び活性化し、唯一、町外の人を招く場を提供している町長を心から支える公務員魂はないのか。住民の憩いの場として、心から楽しめる、活力のある楽しい金魚と鯉の郷広場としてどうしたらいいか。

当時の答弁は、その時の議員の指摘を十分考慮し、そのような広場づくりに努めるとあったが、桜切るバカと議事録に残る町的基本的な考えを伺う。

【答】 (町長)

金魚と鯉の郷広場は、金魚の館、イベント広場、はらっぱ広場、多目的広場、せせらぎ川、修景池等を有し、憩い、安らぎ、交流、そして各種イベント開催の場として町の魅力を発信する施設である。安心安全に利用でき、賑わいのある施設として、多くの皆様にご来場いただけるよう、管理運営を行っていきたいと考えている。

通学路の点検と安全対策を

【答】 安全対策を進める



学童を守る転落防止柵を設置

【問】 清源寺地内の通学路、町道赤田・腹赤線に雑草等が繁茂し、児童が用排水路を確認できず転倒していたことを把握したか。

【答】 (町長)

指摘があった時は把握していなかった。早速、路肩の補修と転落防止柵の設置を実施した。

【答】 (教育長)

通学路に児童が転落していたことは把握している。

【問】 児童名や、被害者に話を聞く等の調査をしたか。

【答】 (学校教育課長)

児童は誰だったか不明である。

答弁は虚言ではないか

【答】 言葉足らずで誤解を招いた

【問】 「教育委員会には、生徒から聞き取ったメモを取りまとめたものはない。」という答弁があった。しかし教育長は、「私も教育委員会の答弁では、矛盾する発言はしていない。」と答弁している。虚言ではないか。

【答】 (学校教育課長)

令和4年9月議会の教育長の答弁で、私の答弁が言葉足らずだったため誤解を招いたことについては、おわびを申し上げた。



たなり なる
田成 護
議員

登校日には給食の実施を

答 荒尾市と調整を進めていく



登校日は給食を！

夏 休み前3日間の登校日に給食が実施されなかった。理由は。

(教育長)

答 本町の春休み、夏休みの変更により、荒尾市との調整が遅くなったため実施できなかった。

問 なぜ、遅くなったのか。

(学校教育課長)

答 本町は毎年12月に来年度の計画を立てている。間に合うという認識であったが、荒尾市は計画策定が終了していた。

問 給食センターを共同で設立運営しているのであれば、本町だけでも3日間の給食を実施できなかったのか。

(学校教育課長)

答 給食センターと調理配送の委託業者との契約で、給食実施日数の年間の上限日数が200日となっている。荒尾市と長洲町の給食実施日数が200日を3日超えてしまい、実施できなかった。

問 保護者から学校や教育委員会へ、意見や要望はなかったか。

(学校教育課長)

答 夏休み前に、学校から保護者へ学級通信や学校だより等で事情を説明しており、問合せはなかった。

問 来年度、登校日には給食が完全に実施されるよう、交渉はできるのか。

(教育長)

答 すでに荒尾市と協議、調整を開始している。学校運営に支障がないよう、調整を進めていきたい。

問 学校給食は、子どものバランスのとれた食事の摂取等、食育だけではなく、家庭の負担の軽減につながる要素も大変大きい。来年度以降、登校日には給食が実施されるように希望する。



保護者の負担軽減にも



まえだ みわこ
前田美和子
議員

子育て支援は、地域全体で支える
取組が必要では！

答 地域との連携を強化していく



パパの腕の中でスヤスヤ

問 昨年度よりいち早く、男性育児休業促進奨励金事業に取組んでいるが、実績は。

答 本町において、病気の早期発見や健康面の支援、幼児教育の支援、また、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を行い、安心して子育てできる環境整備に取り組んでいる。町と地域が連携した地域コミュニティの更なる強化を図っていく。

少 子化は、経済活動の低下や社会保障制度の安定をゆるがすものである。地域全体で子育てを支援し、支え合う持続的な取組が必要ではないか。

(町長)

答 (子育て支援課長)

令和4年度の申請件数は23件、交付金額は148万5千円。今年度8月末では申請件数が9件あり、交付金額は76万円である。

問 効果と今後の周知については。

(子育て支援課長)

答 令和4年度の出生数は85人で、27%の取得率。今年度8月末には出生数45件のうち取得が9件で、この結果からも取得拡大に大きな効果があった。今後、広報や町公式LINEの配信等で広く周知していく。

問 B & G財団の「子ども第三の居場所事業」は、全ての子ども達が未来への希望を持ち、これからの社会を生き抜く力を育む機会と環境を提供する事業であり、少子化対策として重要な取組である。少子化対策として有名な岡山県奈義町では、この事業をいち早く運用し取組を行っている。



地域福祉センターの活用を期待

答 本町においても、安心してこころ豊かに子育てできるまちの実現のため、地域福祉センターを活用の一環として、運用してはどうか。

(町長)

答 B & G財団の子ども第三の居場所事業は全国的に展開している。全ての子どもが安心して過ごすことができる環境を整備することは、子育て支援において重要である。地域福祉センターを活用の一環として、子ども第三の居場所づくりを検討していく。



はやし としや
林 敏哉
議員

学校給食費の保護者負担の完全無償化、一部助成を求める

答 一部負担など、検討する。

全 国的にも近隣自治体でも、保護者負担の無償化や一部助成を行っている自治体が増え続けている。これは保護者の経済的負担の軽減や、子育て支援の推進、さらには若い世代の定住促進にもつながり、喫緊の課題と考えるが。

答 (教育長)

学校給食法第11条の規定に基づき、保護者負担が原則であると認識し、現在のところ無償化、一部助成の予定はない。

問

宇城市が熊本県内の市レベルで初となる完全無償化を8月より開始した。芦北町も今年4月より完全無償化を開始し、和水町は半額助成から全額助成に今年4月より制度を拡大した。この背景には何があると考えるか。

答

(教育長)
子どもの貧困対策として子ども達に対するサービス提供の手段として、各自治体の政策的な考えの下に実施されていると思う。

問

こども家庭庁は、具体的政策として「こども・子育て加速化プラン」を取りまとめたが、「学校給食費の無償化」について、どのような政策を打ち出してきたか。

答

(学校教育課長)
「こども未来戦略方針」において、「学校給食の無償化」は明確には記されていない。

問

公費負担制度の基準に該当しなくても、経済的に困窮している世帯は数多く存在する。教育長より、「経済的に困窮している世帯は就学援助や生活保護費として公費で負担としている。」と答弁があったが、公費負担率は全体の何割か。

答

(学校教育課長)
全児童生徒数に占める割合は約9・7%である。

問

就学援助や生活保護制度の適応を受けられない生活困窮世帯も含め、すべての児童生徒が対象であるべきである。

制度化した自治体は、創意工夫しながら持続可能な財源確保を行っている。ふるさと納税を基金

として積み立て、一般財源と基金を活用して財源に充てる考えはないか。

答

(町長)
ふるさと納税寄附金を安定収入として財源に充てることは、リスクを伴う部分があると考え、一部負担については、将来的に国の動向を注視しながら、検討する。

問

どうすれば持続可能な財源の捻出、確保ができるかを考えるのが、町の最高責任者である町長の任務ではないか。町長の決断だと思う。町が優先課題として役割を果たさなければならぬ。



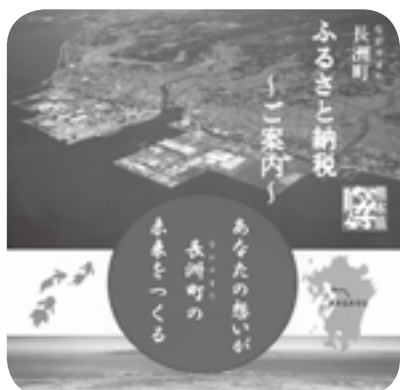
学校給食の無償化は喫緊の課題



あらき むつこ
荒木 睦子
議員

ふるさと納税を活用した
地域活性化を

答 子育て支援や教育、福祉等に活用し返礼品の充実に努める



ふるさと納税で長洲町を元気に！

問 令和2年度の8億円を超える多額の寄附の要因は。

答 (町長) 寄附額の過去3年間では、令和2年度8億1264万円、令和3年度5億9446万円、令和4年度5億5634万円となっている。町は、子育て支援や教育、福祉の用途を明示し、活用について情報配信を行うとともに、返礼品の充実に努めている。

平 成20年にふるさと納税の制度が開始され、15年を経過し、年々納税額が拡大している。魅力ある地域特産品の返礼品の充実等を含め、制度を活用した地域活性化の取組を伺う。

(町長)

答

寄附額の過去3年間では、令和2年度8億1264万円、令和3年度5億9446万円、令和4年度5億5634万円となっ

平 成20年にふるさと納税の制度が開始され、15年を経過し、年々納税額が拡大している。魅力ある地域特産品の返礼品の充実等を含め、制度を活用した地域活性化の取組を伺う。

答 (まちづくり課長) ふるさと納税のポータルサイト、ホームページ上のサイトを増やしたことが要因と考える。

問 現在、町の返礼品は何種類あるのか。また、上位返礼品はどういうものか。

答 (まちづくり課長) 約400品目ある。特に多いのは有明海のノリ、米、梨で、特に地元の梨農家の協力により伸びている。

問 ふるさと納税の使い道の状況を伺う。

答 (まちづくり課長) ①子育て支援・教育の充実に健康づくり・福祉の充実に魅力的なまちづくり事業④町に一任の4項目である。

問 危険予知能力の育成、指導をさらに強化

答 通学路(町道上四丁目・海岸線)を登下校するときに、車の往来もあり、危険と思われる場所を改善すべきと考えるが、対策を伺う。

答 (学校教育課長) お尋ねの通学路は、一直線になっていないため、見通しが良くない。児童には危険回避のため左側を通行するよう指導している。

問 全校児童237名の約3割、69名がこの道路を通学している。時間的に車の往来も多い。現状をどのように考えるか。

答 (建設課長) 今後必要に応じ協議する。

問 通学路(町道上四丁目・海岸線)を登下校するときに、車の往来もあり、危険と思われる場所を改善すべきと考えるが、対策を伺う。

答 (建設課長) 今後必要に応じ協議する。



安全な通学路を

問 全長90mのうち、残り60mの改善対策を伺う。

答 (建設課長) 今後必要に応じ協議する。

問 全校児童237名の約3割、69名がこの道路を通学している。時間的に車の往来も多い。現状をどのように考えるか。

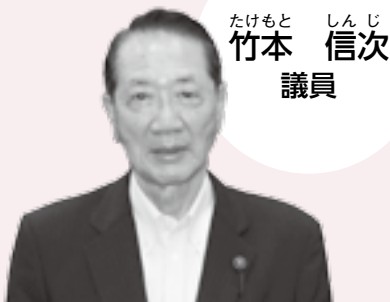
答 (学校教育課長) お尋ねの通学路は、一直線になっていないため、見通しが良くない。児童には危険回避のため左側を通行するよう指導している。

問 全校児童237名の約3割、69名がこの道路を通学している。時間的に車の往来も多い。現状をどのように考えるか。

答 (建設課長) 今後必要に応じ協議する。

問 全長90mのうち、残り60mの改善対策を伺う。

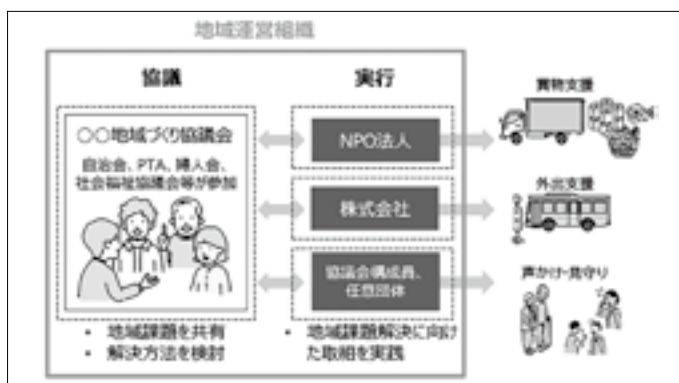
答 (建設課長) 今後必要に応じ協議する。



たけもと しんじ
竹本 信次
議員

人口減少や少子高齢化時代の新しい地域運営組織の設立を

答 町内37行政区の地域性や特色を活かした取組を継続支援する



地域の暮らしを守るため地域運営組織の形成・運営を
(総務省：地域運営組織分離型のイメージより)

人 口減少や少子高齢化、コミュニティの衰退等、様々な課題が今後予想される。急速な変化に対応していくため、地域の将来像を描き、取組むべき課題を明確化し、全国的に普及が進んでいる地域運営組織による地域づくりを進めることが重要である。

地域運営組織（地域づくり協議会）の設立に向けてどのように考え、今後どう取組んでいくのか。

答 (町長)

全国で7,234の組織、県内9市町で128の組織が設置されているが、本町では「地域運営組織」の設立はされていない。町内37行政区それぞれの地域性や特色を活かした創意工夫による活動が、区長を中心に関係団体と連携して展開しているので、この取組を引き続き支援する。

問 本年6月末における65歳以上の高齢化率及び人口を伺う。

答 (町長)

65歳以上の割合が最小の行政区は向野北区であり、人口600名のうち65歳以上が2名で、高齢化率0.3%となっている。向野北区は、約3分の1は外国人労働者で他の区とは環境が異なる。最大の行政区は、下本区が人口68人のうち65歳以上が41人で、高齢化率60.3%である。

問 人口減少、地域の高齢化率の高まり等に伴い、各行政区が運営を行うにあたり、抱える現状の問題点についてどのように認識

しているか。

答 (町長)

人口が減少し、少子高齢化が進む中で、区の役員のなり手不足や人材の固定化、地域活動を主体的に担う区民の高齢化等により、行政区ごとで活動の範囲に差が生じていると認識している。

問 人口減少や少子高齢化、ライフスタイルや価値観の変化に伴い、区長や役員、民生員等のなり手不足、町や区の行事への参加率が低下し、既存の組織が今後も活動を維持できるかという問題等が考えられる。地域コミュニティの活性化が求められているが、これからの「地域づくりと人づくり」について町長はどう考えているか。

答 (町長)

今後も地域と行政の連携を密にし、地域課題の解決に向けた支援を引き続き行っていくとともに、地域町民の声に真摯に耳を傾け、「地域づくり・人づくり」に取組んでいく。



ふくもと
福本みや子
議員

第3次食育推進計画の状況は

答 地域連携でライフステージに応じた食育の推進に努める



毎日7種類は食べましょう！

食 育推進計画策定委員会の令和2年度のアンケートの結果から、
1、成人の食育への関心が年々低くなっている。
2、成人の朝食抜きが目立つ。
3、高齢者の共食割合が低い。
等の心配な点がある。本町の食育現状をどう捉えているか。

答 (福祉保健介護課長)
若年世代の朝食欠食や食育への関心低下は家庭への影響が危惧される。無関心層に向けて食育のアプローチを強化する必要がある。また幼少期からの健康意識を高めるため、さらに学校と連携し、家庭に対し朝食をとる必要性を啓発していく。さらに高齢者にも、介護予防拠点や食生活改善事業の料理教室や講話等に関係団体と引き続き連携し取組むことが大事だ。

問 課題への具体的な取組は。

(福祉保健介護課長)

答 児童生徒にはコロナ禍での肥満の増加が有り、間食や栄養バランスや食品パッケージの見方を学ぶ食育の学習を実施している。

介護予防拠点では体力測定や栄養講話や調理実習等で啓発する。特に高齢者単身世帯の半数が痩せという結果があり、シニア男性に向けて『これカラダ健康教室』を開催している。公募以外に健康診断の結果で改善が必要な人にも声掛けし参加してもらっている。

問 取組に工夫やアイデアがある。発想はどこからか。

(福祉保健介護課長)

答 食生活の改善や健診の大切さを働き盛り世代や健康無関心層へどう伝えるかが一番の課題だ。保健師、管理栄養士、歯科衛生士が議論しアイデアを出しあい、事業に活かすことで予防活動につながっている。

問 家庭での食生活の重要性が高まっている。献立のヒントや郷土料理のレシピ等動画での情報発信等も必要だ。今後、策定する健康増進計画での食育の考え方を伺う。

(福祉保健介護課長)

答 デジタル化を活かした情報発信も視野に入れ地産地消料理や郷土料理も伝承していく。国の次期健康増進計画の目標に沿って、健康意識アンケートを基に分析し、独自の食生活習慣に関する課題を見つけ計画を策定したい。町民の食への関心を高め、広がりのある活動に発展させ、健康施策・栄養施策を充実させていきたい。